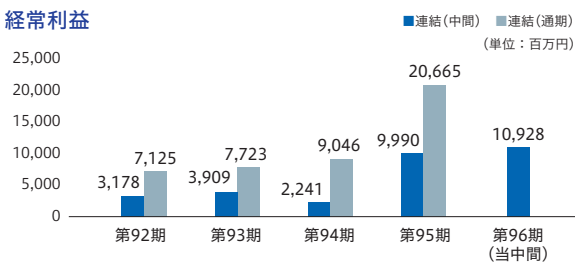
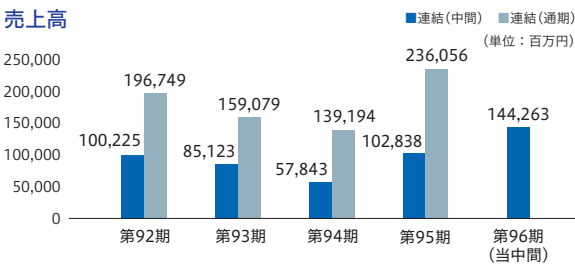


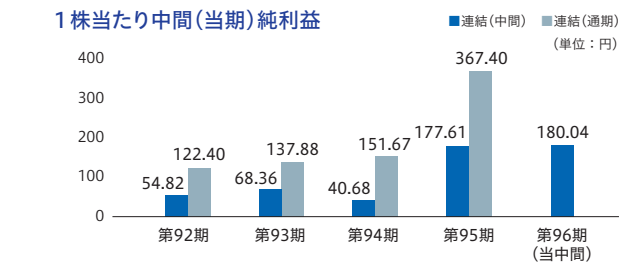
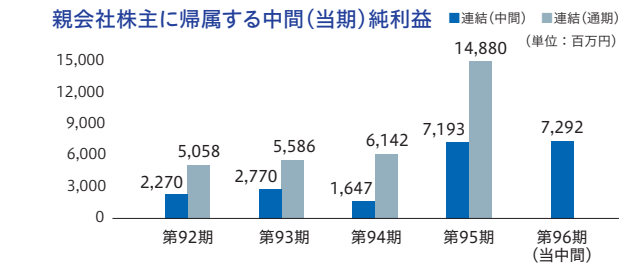
■ 連結財務ハイライト



■ 中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表 (単位：百万円)

科 目	金 額	
	前期末 2022年3月31日現在	当中間期末 2022年9月30日現在
資産の部		
流動資産	113,500	114,260
固定資産	28,115	30,053
有形固定資産	22,615	24,659
無形固定資産	115	123
投資その他の資産	5,384	5,270
資産合計	141,616	144,313
負債の部		
流動負債	72,271	65,210
固定負債	10,839	10,402
負債合計	83,110	75,612
純資産の部		
株主資本	55,526	61,403
資本金	6,346	6,346
資本剰余金	8,843	8,841
利益剰余金	41,677	47,552
自己株式	△1,341	△1,337
その他の包括利益累計額	2,052	6,227
その他有価証券評価差額金	1,233	1,206
繰延ヘッジ損益	△99	61
為替換算調整勘定	661	4,735
退職給付に係る調整累計額	256	224
新株予約権	145	142
非支配株主持分	781	927
純資産合計	58,505	68,701
負債・純資産合計	141,616	144,313



中間連結損益計算書 (単位：百万円)

科 目	金 額	
	前中間期 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	当中間期 2022年4月1日から 2022年9月30日まで
売上高	102,838	144,263
売上原価	88,803	128,796
売上総利益	14,034	15,466
販売費及び一般管理費	4,060	4,696
営業利益	9,973	10,770
営業外収益	341	592
営業外費用	324	435
経常利益	9,990	10,928
特別利益	8	10
特別損失	43	43
税金等調整前中間純利益	9,955	10,895
法人税等合計	2,666	3,505
中間純利益	7,289	7,390
非支配株主に帰属する中間純利益	95	97
親会社株主に帰属する中間純利益	7,193	7,292

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

科 目	金 額	
	前中間期 2021年4月1日から 2021年9月30日まで	当中間期 2022年4月1日から 2022年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△7,535	16,609
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,419	△2,403
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,602	△10,904
現金及び現金同等物に係る換算差額	87	133
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△265	3,433
現金及び現金同等物の期首残高	5,702	4,779
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,437	8,213

■ 会社概要

創 業 1922年11月23日
設 立 1948年10月29日
資 本 金 6,346,642,553円
従 業 員 数 320名
営 業 品 目 ●アルミニウム二次合金地金(ダイカスト用・鋳物用・圧延用・脱酸用)の製造・販売
●溶解炉及び関連設備・機器、溶解システム等の設計・製作・販売並びにその補修

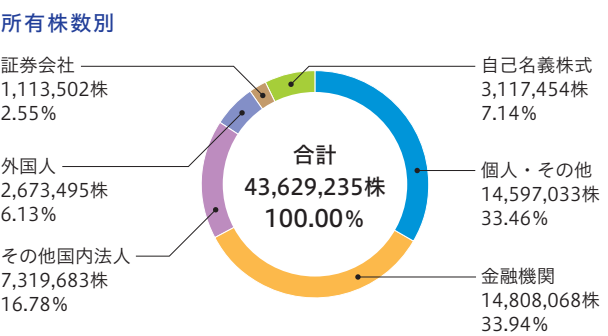
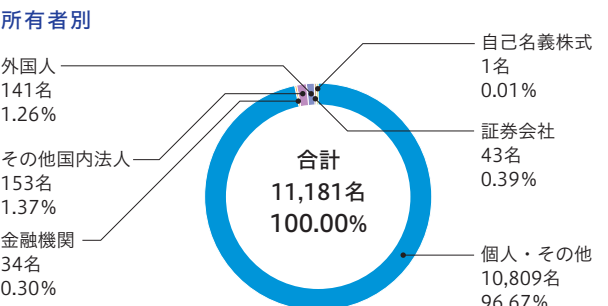
■ 会社の株式に関する事項

- (1)発行可能株式総数…………… 160,000,000株
(2)発行済株式の総数…………… 43,629,235株
(自己株式3,117,454株を含む。)
(3)株主数…………… 11,181名
(4)大株主

株 主 名	持株数 千株	持株比率 %
有 限 会 社 山 本 エ ス テ ー ト	3,480	8.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	3,384	8.3
山 本 隆 章	2,208	5.4
株 式 会 社 日 本 カ ス ト デ ィ 銀 行	1,994	4.9
株 式 会 社 り そ な 銀 行	1,904	4.7
株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行	1,580	3.9
大 紀 ア ル ミ 得 意 先 持 株 会	1,188	2.9
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	1,004	2.4
み ず ほ 信 託 銀 行 株 式 会 社	1,003	2.4
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	1,002	2.4

(注) 1. 上記以外に自己株式を3,117,454株保有しております。
2. 持株比率は、自己株式(3,117,454株)を控除して計算しております。

■ 株式分布状況

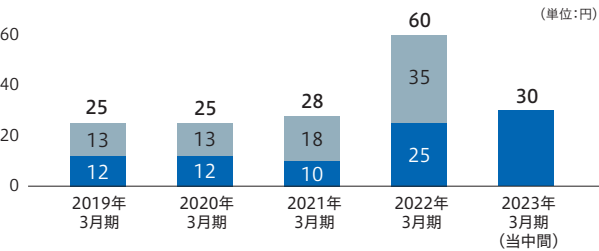


■ 役 員

代表取締役 社長執行役員	山 本 隆 章
代表取締役 副社長執行役員	林 藤 繁
取締役 専務執行役員	後 藤 典 示
取締役 常務執行役員	山 岡 和 正
取 締 役	辰 野 守 彦
取 締 役	辰 野 英 士
取 締 役	磯 貝 謙 二
取 締 役	谷 川 芳 光
常 勤 監 査 役	森 川 孝 夫
常 勤 監 査 役	谷 澤 敏 密
監 査 役	野 澤 正 訓
常 務 執 行 役 員	石 門 谷 正 雄
常 務 執 行 役 員	小 畑 田 竜 也
上 席 執 行 役 員	中 尾 弘 督
上 席 執 行 役 員	黒 須 弘 人
執 行 役 員	湯 川 誠 次
執 行 役 員	山 田 良 次
執 行 役 員	川 口 絵 里

(注) 1. 辰野守彦、磯貝英士及び谷謙二は、社外取締役であります。
2. 野澤密孝、石黒訓は、社外監査役であります。

■ 1株当たり配当額の推移



■ 株主メモ

事 業 年 度 4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会 6月中
配 当 の 基 準 日 中間配当 9月30日
期末配当 3月31日

単 元 株 式 数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社

郵便物送付及びお問合せ先		
	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507東京都杉並区泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先		0120-288-324(フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
未配当金のみ、株式会社みずほ銀行 本店及び全国各支店でもお取扱いいたします。		
ご注意	支払明細発行については、右の特別口座の場合の郵便物送付先・電話お問合せ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取以外の株式売買はできません。

公 告 方 法 電子公告
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載を行います。
※公告掲載の当社ホームページアドレス
<https://www.dik-net.com/>

上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場

第96期 中間報告書

2022年4月1日から2022年9月30日まで

リサイクル。それは限りない価値創造です。

株式会社 大紀アルミニウム工業所

証券コード：5702

■ 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご高配

を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社の2022年4月1日から2022年9月30日までの第96期中間報告書をお手許へお届けいたします。

2022年12月

代表取締役 社長執行役員

山本隆章

■ 事業の概況

当中間連結結果計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大や、ウクライナ情勢等の影響による原材料価格及び原油価格の高騰などにより、諸物価上昇による消費の冷え込みが懸念されるなど、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

こうした環境のもと、大手需要先である自動車メーカー関連各社は、世界的な半導体不足の長期化や部品の調達難が継続しており、生産計画の見直しにより自動車の生産量が減少しました。

しかし、当社グループにおいては、販売数量が伸び悩んだ中で、原材料購入単価の適正化への努力をするとともに、製品の適正な在庫管理を徹底して取り組んでまいりました。また同時にカーボンニュートラルのトレンドの下、水平リサイクルのニーズが伸び、圧延向けの缶材が好調に推移しました。

この結果、当社グループの中間連結売上高につきましては、前年同期に比して平均販売価格も上昇したことにより、アルミニウム二次合金地金972億1千2百万円(前年同期比41.9%増)、商品・原料他470億5千万円(前年同期比37.1%増)で、これらを併せた売上高総額は1,442億6千3百万円(前年同期比40.3%増)となりました。

収益面につきましては、製品価格と原料価格の価格差(スプレッド)が順調に推移した結果、経常損益につきましては

109億2千8百万円(前年同期比9.4%増)の利益となり、親会社株主に帰属する中間純損益は72億9千2百万円(前年同期比1.4%増)の利益を計上することとなりました。

今後の見通しにつきましては、当社グループは第3四半期において、連結の海外拠点子会社における製品と原料の価格差が一時的に縮小し、売上総利益が減少する見込みとなることから期初予想数値を修正いたしました。また、ウクライナ情勢による資源やエネルギー価格の上昇や急速な為替変動の影響による世界的な消費の落ち込みや生産活動の停滞など、世界経済が減速することが懸念されており、予断を許さない状況が続くと見込まれます。

このような状況下において、当アルミニウム二次合金業界は大手需要先である自動車メーカーは半導体不足による部品メーカーのサプライチェーンの混乱による影響により、先行きの不透明感が強い状況で推移するものと思われます。

こうした中、当社グループは、需要に見合う効率的な生産体制、原材料の価格変動にも対応出来る購買体制を構築するなど、時代の変化に敏速に対応し、社業の発展に万全を期する所存であります。

株主各位におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

国内ネットワーク

お客様と、もっと近くに。もっと親密に。

生産拠点となる5工場。前処理その他の重要な役割を担う関係会社。
加えて、営業と情報の前線となる各地の事業拠点……。
着々と布石を打ってきた大紀グループの国内ネットワークは、年々、密度を高めつつあります。
これまで以上に、お客様の声に近づくために ―――。
製品納入はもとより、技術サービス、アフターケアなど、大紀グループならではの多面的な活動を展開中です。



グローバルネットワーク

世界とリンクする。“Global”な視点と活動。

それは、海外との取引や活動拠点の設置といった内容のみを指すものではありません。
品質で、コストで、サービスで、また研究開発等の先進性で、たえず世界の水準を見すえて、
地球レベルの活動へとアクセスするという、息の長い取り組みをめざすものです。
地球全体を舞台に、その活動と情報のネットワークは点から線へ、線から面へ。
私たちの“Global” ― さらなる新段階を拓きつつあります。



トピックス

「創業100年記念誌」を発刊しました。

大紀アルミニウム工業所の創業100年を記念し、創業者山本繁一が初等教育を終え、和歌山から大阪へ奉公に出て、1922年に大紀アルミニウム工業所を創業するまでの足跡を物語としてまとめました。
大紀の「大」=大阪、「紀」=紀州という社名の成り立ちを感じられる本となっております。
当社は今後も100年前の創業スピリットを持続して前進し続けます。

QRコードはこちら



創業100周年の節目として日本経済新聞に記念広告を掲載しました。

創業時から変わらないものがあります。それは、限りある資源を活かし、限らない価値を創造するという私たちの想いです。次の100年も資源の循環に取り組み続け、地球が真に求める企業へと成長していく所存です。
どうぞ、これからの大紀アルミニウム工業所にご期待ください。



「Sustainability Report」を発行しました。

これまでの『環境報告書』をリニューアルし、大紀アルミグループのサステナビリティに対する考え方や、グループのESGへの取り組み事例をくわしく紹介した、『Sustainability Report』を発行しました。

QRコードはこちら

